

ウルリム
響

星 環

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第77号

2023年7月15日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: nskikikuno@gmail.com

聖公会生野センター

検索

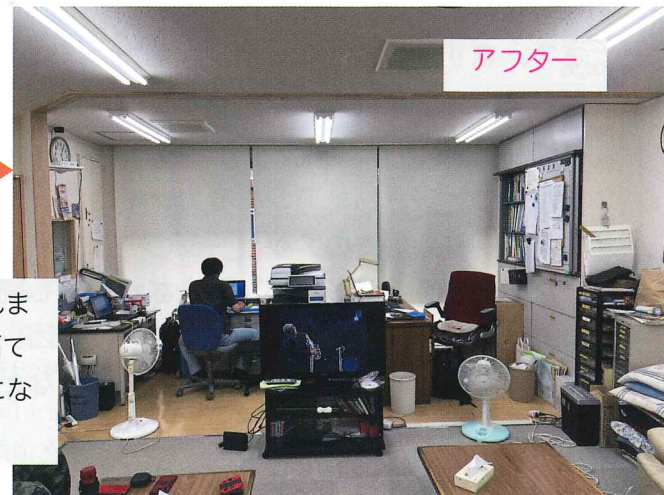
聖公会生野センターは2022年に創立30周年を迎えました。30周年記念事業の一環として介護事業を開始し、それに伴いお風呂の設置や事務所の壁の撤去など一階の内装工事を行いました。

工事のビフォーアフターをご覧ください。

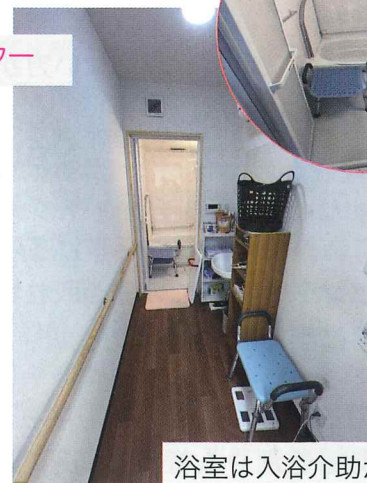
新しくなった聖公会生野センター、これからも応援のほどよろしくお願
いします。



ボランティアさん後の壁が撤去されま
した。事務所と多目的スペースを隔て
る壁が無くなり、広々とした空間にな
りました。



多目的スペース奥の部屋が改装され、
部屋の左半分が休養・相談室になり、
右半分にお風呂が設置されました。



浴室は入浴介助がしやす
く設計されています。

聴き取れないほどの小さな声を感じ取る

主教 アンデレ磯晴久

主の平和の実現をお祈り致します。

いつも神さまの御名によって建てられました聖公会生野センターを憶え、お支え下さることを感謝致します。また、この場を借りて、同センター設立30周年に寄せられました皆様のご厚情、お祈り、貴い献金に感謝申し上げます。今後とも、お祈りとご支援をよろしくお願致します。

さて、まず、皆様と一緒に、前カントベリー大主教ローワン・ウィリアムズ師が、2007年南アフリカ・ヨハネスブルグで開催されたアングリカン・コミュニオン宣教会議でのメッセージの一部ですが、味わいたいと存じます。残念ながら今も続いていますけれども、大主教が世界の紛争、貧困、人権侵害、大災害、暴力、難民、飢餓・・・などの状況を踏まえてのメッセージです。

「聖歌隊の指揮者にとって最も重要な任務は、大声を出して歌う人や、音を外している人に注意を与えることではない。その任務とは、声の出ている人、聴き取れないほどの小さな声の人の存在を、敏感に感じ取れることだ。そして、『あなたの声が聴こえなければ、この聖歌隊はない方が良いのだ』と語りかけることなのだ。」

大主教は、教会につながる私たちの大きなテーマの一つとして、「聴き取れないほどの小さな声の人の存在」に敏感であることを挙げておられます。聖公会生野センターも、この聴き取れないほどの小さな声を大切に歩んで参りました。

私自身のことで恐縮ですか。学生の時代から、この世界にある差別や人権侵害問題を学ぶ機会を

えられてきました。その中で、一貫して教えていただいたのは、社会の狭間で、小さくされている方々の聴き取れないほどの声の人の存在に、心の目や耳が開かれているようにということでありました。

新聞等でとりあげられております「徴用工」問題について、私は様々な意見があると承知しています。私は、元徴用工問題は、日韓両政府に責任があると考えます。おおもとをたどれば、日本の植民地支配下で起きた問題で、1965年の日韓国交正常化に向けた交渉でも議論になりました。結果、日本側は5億ドルの経済協力資金を提供することで合意しました。しかし、当時、韓国は軍事独裁政権でしたので、この資金が被害者の人権回復、救済に用いられることはありませんでした。その後韓国が様々な困難・苦難を乗り越えて民主化を実現し、徴用工問題が顕在化し、被害者がようやく声をあげることができるようになって今に至っています。私は、いつまでも日韓両政府が仲たがいでいるのはよくないので、和解に向かってのチャンスが来ているとも感じます。

私が願うのは、日韓両政府が元徴用工の人々の声を聴いてほしいということなのです。こうした時、まことに残念なのは一番しんどい人の声が聴かれることがないということです。「聴き取れないほどの小さな声」を聴き、日本政府が改めて謝罪し、韓国側の財団だけで肩代わりするのではなくて、日本側も加わった形でできれば、両国が新しい一歩を歩み出せるのではと考えています。

私たちが、「聴き取れないほどの小さな声の人の存在」に敏感であることを大切に歩めますように、主の導きを祈りつつ。(いそ・はるひさ 聖公会生野センター理事長、大阪教区主教)



聖公会生野センター30周年記念事業報告

1) 委員会

- 第1回：2021年4月19日/ 第2回：2021年7月9日/ 第3回：2021年9月1日
- 第4回：2021年10月20日/ 第5回：2022年3月25日/ 第6回：2022年5月16日
- 第7回：2022年8月25日/第8回：2022年9月20日/第9回：2022年12月14日
- 第10回（最終）：2023年5月26日

2) 事業概要

- ・30周年記念募金
- ・連続セミナー（2021年9月～2022年3月）
- ・記念礼拝（2022年10月10日 プール学院）
- ・のりばんレシピ出版（2022年10月）
- ・生活介護（障がい者）開始（2023年3月）

多くの方々に支えられて30周年の募金が無事に終了いたしました。目標の600万円にはあと一歩でしたが皆様には感謝しております。

献金者ご芳名（敬称略/順不同）

李清一/趙博/今西保次/金弘明/藤永壯/高地敬/李民實/岡田光司/金迅野/ウィリアムス神学館/森中央/本井栄子/林香代子/日本聖公会大阪教区連合男子会/今西時子/西原廉太/阪神共同福祉会/村上満智子/神谷尚孝/黒川純栄/川那辺康一/金恒勝/小林尚明/叶信治/中山一郎/徐文平/真庭功/黒田益弘/谷富夫/魁生由美子/奥和子/井田泉/博愛社/李マリジャ・黒川能孝/鈴木靖夫/東敏勝/高見久江/辻彩乃/朴実/高祐二/元百合子/河野紀子/河野芳孝/池住圭/イエス団 小野昌二・吉崎志保/太田明夫/飛田雄一/淡澤一郎/石垣進/川上由夏/寺本眞名/西脇邦雄/西岡研介/畑野研太郎/川村直子/韓基徳/宮嶋眞/大森明彦/上原榮正/林眞澄/目崎宗世/小笠原嘉祐/青柳美知子/伊藤美佐子/石毛弘/岩城聰/林範夫/磯晴久・晶子/国本武信/名出敬/早川育子/田中廉/植松誠/中島妙子/崔長熙/高敬一/勝村誠/松居勲/久保美津子/鈴木憲二/松山健作/太田順子/二見伸吾/金文秀/杉原達/加納佳代子/加納実/岸野令子/辻潤/大畑喜道/木村幸夫/藤原創/鄭光男/長野加代子/長野泰信/大西修・憲子/栗原佳子/矢野宏/良善幼稚園/玄武岩/岐阜アソシア/森克之・金恵心/笠原優/上田貴亮/横野朝彦/熊取谷志郎/近澤淑子/徳島インマヌエル教会/小谷美子/聖マタイ幼稚園/田辺聖公会/文野陽子/梁優子/香西美沙//三宅享子/佐藤信行/空信一/初島聖十字教会/萩野富紗子/上村玉栄/李根秀/服部良一/佐々木晶子/呉榮一/NPO法人精神障害者支援の会ヒット/聖アンデレ教会/李哲/金貴史//谷本仰/渋谷聖公会聖ミカエル教会/門田一郎/高田日出男・恭子/喜多ゆう子/八尾恵三/聖パウロ教会/高橋千恵子/蟻塚亮二/宋君哲/劉成道・金和子/増山悦子/松本潤子/日本基督教団大阪聖和教会/新宮聖公会/三浦恒久/君原實/奥晋一朗/田中裕子/岡本朝也/前原澄子/辻節子/増岡広宣/岸和田復活教会/早川俊・文子/高橋敏子/河野芳孝/首里聖アンデレ教会/松原恵美子/小林幸子/金美優/石井英隆/今川里枝/内田望/小林聡・篠田茜/井上るみ子/芦田邦子/泉迪子/石川亮太/大阪城南キリスト教会/宗像千代子/呉光現/小林浩子/竹林徑一/豊川雅章/大阪聖三一教会/横山秀世/橋本祥子/宇野喜句子/畑野研太郎/倉石昇/恵我之荘聖マタイ教会婦人会/奥村貴充/大川聖恵/黒田益弘/竹淵久子/秋山公子/川口基督教会/保坂久代/出口弘/笹森田鶴/芳我秀一/宮古聖ヤコブ教会/高見久江/古澤陽代/小林宏治/管区総会親信施金/日本聖公会婦人会/青森聖アンデレ教会/金早雪/中尾由紀子/大野寿美/コリアNGOセンター/聖バルナバ教会/三原一男/奈良基督教会/日本聖公会九州教区/城下彰/影山章子/ウイルソンウォーレン/フジタミドリ/三原聖ペテロ聖パウロ教会からし種の会/鍋島久美子/木川田雁子/水谷小枝子/黒田裕/宗形勝/堺聖テモテ教会廃油グループ/小名浜聖テモテ教会/聖贖主教会/平山久美子/文京洙/芦屋聖マルコ教会/上原成和/ナザレ修女会京都友の会/大橋襄/愛楽園祈りの家教会/屋我地聖ルカ教会/菊池協子/弘前昇天教会/仙台聖フランシスコ教会/竹内尚代/魁生由美子/武藤謙一/神戸教区/横浜教区/北海道教区/東豊中聖ミカエル教会/無名/大阪聖愛教会/大韓聖公会ソウル教区/東北教区/北関東教区/高地敬/東京教区/記念感謝礼拝信施金/沖縄教区/サラ玉城圭子//黒沢圭子/西原裕//生野地域教会一致の祈祷会献金//仙台基督教会/金山昌照・志げ子/高橋興史/小林幸子/辻潤/聖ガブリエル教会有志/匿名/古澤秀利/高橋興史/藤井八郎・直/田尻忠邦/入江修/草ヶ江幼稚園園児一同/浮田真理/中村邦介/林竜弘/尼崎聖ステパノ教会/恵我之荘聖マタイ教会/平田義/平山麻衣/高瀬幸子/大阪教区連合男子会/菊池協子/豊見城聖マルコ教会/齋藤壹・祥子/大野寿美/高橋興史/上原聖悟

聖公会生野センター30周年募金会計報告

2021/11/1～2023年3月31日

収入		
1	献金・大阪教区	2,235,266
2	献金・他教区	2,171,273
3	一般献金	519,500
4	大韓聖公会	500,000
5	レシピ売上	72,540
合計		5,498,579

支出		
11	事務通信費等	265,187
12	セミナー費	80,000
13	レシピ製作費	285,000
14	記念礼拝	69,500
15	改築費	3,813,500
16	活動支援	985,392
合計		5,498,579

昨今の日朝関係から想うこと

司祭 アンデレ松山健作

余が朝鮮に在りし三十年間を回顧するに、朝鮮聖公会の信徒は、常によく忠良なる國民たるの實を顯はし、何ら不祥事を惹起せしことなく、従って聖公會と爲政者の間は常に友好的に保たれり。帝国は非常時克服の爲、特に國民の一致團結の實現を願ひ、諸種の愛國行事を奨励せり。(注1)

朝鮮聖公会第4代主教セシル (Alfred Cecil Cooper, 1882-1964)が記した一文です。1937年7月中戦争による日本帝国の侵略が拡大し、イングランドではカンタベリー大主教が率先して「反日大会」に参加した後に朝鮮聖公会の信徒に向けて上記のことが語られました。

それ以外にも朝鮮人信徒には、「皇国臣民ノ誓詞」が、この時期から強要されました。これは朝鮮人のみに強要されるという性格を持っていました。朝鮮における日本人信徒たちは、すでに皇国の臣民であるゆえ、これから皇国化されるべき朝鮮人に対して、日本帝国から教会を通して圧力がかかり、また教会もキリスト教の皇国化に積極的に努めた時代でありました。

私たち現代人は、歴史について長い年月を経れば、当事者は逝去し、精算できたかのように勘違いするかもしれません。昨今では、日韓の「経済協力」、「シャトル外交」、「政府間の協力」、「急接近」などなどさまざまな関係改善を意識させる言葉を目にします。しかし、植民地支配を受けた当事者の声を、どのように聞き、どのような謝罪をし、犠牲者は、どのように癒され、回復へと至ったのでしょうか。おそらく、和解と癒しがなされないまま、忘却の彼方へと葬ったという方が適切な表現だろうと感じています。

今秋は、日本聖公会宣教協議会が清里で開催されます。戦争責任告白が95年に起草された場という意味では重要な意味をなすのだろうと思われま。一方で聖公会の教会が植民地責任を検討する場合、現地人から何を奪い、どのような痛みを押し付け、ど

のような罪を犯したのか。かつての協議会からおよそ30年を経た今、私たちの聖公会という文脈の中で、この間の日韓関係について、再度検討する必要があるのではないかと感じています。

国家に対して「忠良なる国民」とは、どのような存在を指すのでしょうか。国家に対して「不祥事を惹起せしことなく」過ごすことは、どのように生きることでしょうか。「聖公會と爲政者の間は常に友好的に保たれり」というように国家に従順な姿勢を信徒に強要することによって、何が奪われ、どのような痛みを与え、いかなる傷を負わせたのでしょうか。

近年日本は、防衛費を急増させています。いわゆる「非常時」を想定しているのでしょうか。しかし、戦争の歴史からわかることは、民からは金銭が吸い上げられ、命が吸い上げられ、国家・軍隊は民の命を守らないということです。むしろ、守るどころか、尊厳限らない民の命を犠牲にし、あらゆる生命を奪い、自由と信仰を蹂躪したという歴史的経験を有しています。そして、教会もその一翼を一生懸命担っていたわけですから、簡単に評価できない複雑な状況も想定することができるだろうと思います。

しばしば「あの時は、しょうがなかった」という声が聞こえてきます。では、「今」はどのようなのでしょうか。歴史を経験してきた私たちは、先人が歩んできた過程を振り返り、時に反省し、和解について祈り、今後どのような関係を築くことができるのでしょうか。



1939年6月24日ファドク聖ベトロ教会祝聖

主教セシルと朝鮮人信徒たち

(1)「主教の書簡」『聖公會報』第25巻第5号、1938 (昭和13)年5月1日、1頁。『朝鮮聖公会会報』(245号)1938年5月。

(まつやま・けんさく 金沢聖ヨハネ教会牧師)

大阪コリアタウン歴史資料館

2023 sat
4-29
13:00~OPEN



大阪コリアタウン歴史資料館

住所：大阪市生野区桃谷4-4-11 開館時間：10時~17時 休館日：水曜日

年間約200万人の観光客が訪れる大阪コリアタウン。ここに「大阪コリアタウン歴史資料館」が4月にオープンしました。

ここは在日の歴史、現状、そして韓流まで展示するおしゃれでかわいい建物です。展示は現在から始まり古代まで至ります。今のコリアタウンをまず感じて、戦後(解放後)の在日の営み(経済活動、文化活動)があり、そのあとに戦前、朝鮮半島、特に済州島から多くの朝鮮人が渡来して定着していく猪飼野の姿が俯瞰できます。最後には「トリビアコーナー」。コリアタウンの興味深い風景を感じることができます。書籍や資料も充実しており、展示で収まらないものはタッチパネルで深く学べるようになっています。

コリアタウンを訪れた人たちがここでひと時の学びの場を持つことが期待されています。

いくのパーク (御幸森小学校跡地)

住所：大阪市生野区桃谷5-5-37 パーク内のテナントにより営業時間が異なります。

この5月3日、御幸森小学校跡地に複合施設である「いくのコーライズパーク (通称：いくのパーク)」がグランドオープンしました。

コリアタウン (御幸通商店街) に隣接する御幸森小学校は2021年3月に閉校され、小学校跡地の活用事業者として「NPO法人IKUNO・多文化ふらっと」と「株式会社RETOWN」が選定されました。いくのパークは多文化共生の地域拠点となることが期待されています。

22のテナントには、「大阪聖和保育園子育て支援・多機能センター」から「図書室ふくろうの森」そして「屋上バー+BBQ アナザームーン」など多様な施設・店舗が入っています。ぜひ足を運んでみてください。



↑の画像は「オオサカジーン」のサイトより
<https://kaishaoen.osakazine.net/e751122.html>



屋上プールを活用したバー+BBQのお店「アナザームーン」



「図書室ふくろうの森」には「のりばんしんぴ」が展示されていました。

管区事務所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yurai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

声明文

不当な「徴用工解決案（日帝時代強制徴用解法）」の撤回を求めます。

日韓両聖公会は 1984 年から多くの社会的懸念があった中においても、心からの謝罪を基に共同プロジェクトなどを通じて過去の傷みを共有し癒しと和解に向けた、草の根レベルの日韓関係を形成してきました。この両聖公会の癒しと回復と和解の歩みは、アングリカン・コミュニオンにおいても、過去の植民地支配における葛藤の解決への新たな取り組みの事例として評価されています。

しかし、私たちは 3 月 6 日、被害者の願いを踏みにじった第三者による弁償方式で日韓関係の解消を一方的に発表した韓国政府は、未来の平和への歩みではなく、痛ましい歴史の誤謬を繰り返す姿であり、これを歓迎して強制徴用自体を否定する日本政府の対応を認めることはできません。両国の未来への真の和解の道は、痛烈な反省と真なる謝罪が基盤であり、それは変えてはならないと考えます。

植民地朝鮮時代の強制徴用の賠償問題は、すでに 2018 年韓国最高裁判所で非道徳的な不法行為として判決となり、被告の日本企業に賠償が命じられました。

これに対して日韓両聖公会は、被害者の同意なしに過去の痛ましい歴史を金銭的に簡単に解決しようとする非聖書的、非倫理的な歴史認識について深く憂慮し、今回韓国政府が発表したような解決方法は真の解決につながるものではないと考えます。

また、韓国政府の発表の背後には、平和を愛する多くの人々が懸念する日米韓の軍事同盟の強化を通じた新冷戦体制を築こうとする試みがあることに注目しなければなりません。これは東北アジアの軍事的緊張を高め、私たち皆を新たな脅威にさらすこととなります。

日韓両聖公会は、これからも深い絆による協働の道を歩むために、日韓の間に横たわる徴用工問題の解決は、韓国政府の「第三者弁償案」ではなく、日本側の強制徴用に対する謝罪と責任ある履行と、被害者との合意が前提とされなければならないという認識を共有し、共に以下の事項を求めます。

- 韓国政府は、強制徴用に関わった日本の企業が参加しない第三者による弁償案を撤回すること。
- 強制徴用に関わった日本の企業と日本政府が、強制徴用被害者に謝罪し、法的な賠償を行うこと。
- 両国政府は被害者の苦痛と要求に応え、東北アジアの平和のために努力すること。

2023 年 4 月 9 日

大韓聖公会韓日共同委員会 委員長 主教 朴 東信 (パク・ドンシン、大韓聖公会釜山教区主教)

日本聖公会日韓協働委員会 委員長 主教 磯 晴久 (日本聖公会大阪教区主教)

聖公会生野センター2022年度会計報告 会費納入者、献金納入者ご芳名

2022年度の会計報告と献金者のご芳名をお知らせします。

教会、団体等で取りまとめてご献金くださりお名前が出てこない方もいらっしゃいます。また、複数回のご献金を送ってくださった方のお名前は一回の掲載にさせていただきました。ご了承ください。

【正会費】

前田良彦/金弘明/熊取谷志郎/井田泉/伊藤美佐子/木村幸夫/宮嶋真/三浦恒久/小山俊雄/日本聖公会/城下彰/出口弘/中村豊/文京洙/大西修/奥晋一朗/鄭炳熏/長野泰信/古澤秀利/山本真/吳光現/原田光雄/丹田則史/小出裕司/鈴木憲二/こひつじ乳児保育園/林真澄/奥田哲夫/早川育子/岩城聡/柳時京/佐藤耕一/博愛社/大阪聖ヨハネ教会/影山章子/青柳美智子/加納佳世子/竹林徑一/柳時京/春名英夫/小林聡/鍋島久美子/

【後援会費】

竹内一也/上田貴亮/金恒勝/小林幸子/小谷美子/目崎宗世/林香代子/榎本房代/寺本眞名/藤川治彦/宮脇一郎/近澤淑子/二見伸吾/中村道子/後藤聡/井口諭/保坂久代/目崎宗世/趙博/寺本眞名/大野寿美/上村玉栄/植松誠/尾崎茂雄/谷川誠/岡田光司/笹森田鶴/大西憲子/浮田真理/増山悦子/服部喜代司/服部慶子/上田浩子/黒川純栄/奥津由紀子/上村玉栄/奥和子/丹羽なほみ/上田浩子/福田順子/山田郁子/久保義道/森中みよ子/竹林敏子/博愛の園/辻潤/橋本祥子/藤田法子/太田順子/青柳亜矢/香西一恵/長野加代子/桜井揚子/辻節子/大野吾子/田中廉/内宮隆夫/相楽弘子/坪田敬子/牧口真理/前原潔/今村祥子/川村輝夫/樋口敏夫/今西時子/樋口敏夫/佐々木晶子/大阪聖アンデレ教会婦人会/栗井茂明/鈴木靖夫/森中央/東敏勝・直子/古澤陽代/今西時子/福永芽久美/川村昌子/川村輝夫/

【献金】

大阪教区連合男子会総会信施金/山下秀子/東豊中聖ミカエル教会/プール学院中高/岩城聡/山田護/佐野信三/菊池邦香・協子/大口聖公会/前田良彦/立教女学院/ウイリアムス神学館/京都教区/在日韓国出身教役者一同/浦和聖諸聖徒教会/吳光現/北関東教区/夫春子/畑中愛/沖縄教区/上原榮正/飯田聖アンデレ教会/白砂正士/斉藤貴子/今中里枝/吳光現/大阪城南キリスト教会/福永芽久美/川村昌子/川村輝夫/

【クリスマス献金】

林香代子/阪神共同福祉会/金迅野/小林裕二/千松清美/神谷尚孝/東京聖テモテ教会奉仕会/飛田雄一/林国秀/岡田光司/太田順子/岸和田復活教会/君原實/城下彰/上原成和/目崎宗世/聖三一幼稚園/山田拓路/小林宏治/二見伸吾/寺本眞名/京都復活教会/聖光教会/川越基督教会/高佑/前田良彦/平安女学院中学高等学校宗教センター/武藤謙一/富山聖マリア教会/松戸聖パウロ教会/増岡広宣/聖パウロ教会/本井栄子/芦屋聖マルコ教会/宗像千代子/尼崎ステパノ教会/鈴木憲二/富田林聖アグネス教会/聖ルシヤ教会/井上るみ子/福永芽久美/博愛社/加納佳世子/高槻聖マリア教会/大阪聖アンデレ教会婦人会/斎藤壹/聖ルカ教会/野上千春/青柳美智子/大阪聖愛教会/荒川佐智子/川口基督教会/聖バルナバ病院礼拝堂

収入	
受託事業	10,787,744
生活介護	1,421,227
利用者負担金	2,791,701
会費献金	5,434,106
30周年募金より	985,392
雑収入	157,074
収入合計	21,577,244
支出	
事業費	3,990,043
生活介護	202,199
事務費	3,786,865
人件費	14,024,539
支出合計	22,003,646
収支差額	-426,402

会費納入のお願い

長年にわたり聖公会生野センターを支えて下さる皆様に感謝いたします。

7ページの会計報告にもありますように聖公会生野センターの財政は非常に厳しい環境にあります。特に会費・献金の減少傾向がとまっています。福祉・教育事業を展開しておりますが聖公会生野センターの大切なミッションである「すべての人、特に谷間にある

人々」と共に歩む働きを継続するためにも皆様のご支援が欠かせません。

日本経済が厳しい状況の中ではありますが、一人でも多くの方々が会員になってお支え下さることをお願いいたします。

総主事 吳光現 (オ・クアンヒョン)

送金方法

【ゆうちょ銀行（郵便振替）】

口座番号 00910-1-321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

※郵貯銀行以外からご送金の場合

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

自由献金（ご寄付）は随時受け付けております

昨年より、クレジットカードで会費納入・献金ができるようになりました（ホームページからお手続きください）



NPO法人聖公会生野センター理事会

主教 磯晴久（理事長・大阪教区） 司祭 原田光雄（副理事長・大阪教区司祭） / 司祭 岩城聰（大阪教区引退司祭） / 加納佳世子（大阪聖アンデレ教会信徒） / 張聖子（聖ガブリエル教会信徒） / 早川育子（こひつじ乳児保育園園長） / 司祭 奥晋一郎（和歌山聖救主教会） / 鈴木憲二（大阪教区後援会副会長） / 司祭 ウイルソン ウォーレン（芦屋聖マルコ教会牧師） / 司祭 小林聡（教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会） / 司祭 古澤秀利（聖ガブリエル教会管理牧師） / 丹田則史（聖ガブリエル教会信徒） / 司祭 柳時京（川口基督教会牧師） / 司祭 卓志雄（管区宣教主事） / 吳光現（聖公会生野センター総主事） / 長野泰信（監事 石橋聖トマス教会） / 熊取谷志郎（監事 岸和田復活教会）

▼正会員：一口 10,000円（何口でも結構です）

※法人の事業の決定に参加できます

▼後援会員A：一口 3,000円（何口でも結構です）

▼後援会員B：一口 5,000円（何口でも結構です）

▼維持会員：A 30,000円 / B 50,000円 / C 100,000円

※新規に会員になられる方はお名前、ご住所、所属等をご記入の上、郵便・FAX・E-mailでご連絡ください。

・email：nsskikuno@gmail.com

・FAX：06-6224-7869

・郵送：〒544-0002 大阪市生野区小路3-11-19

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

発行人：磯 晴久

編集人：吳 光現

TEL 06-6754-4356

FAX 06-6224-7856

E-Mail nsskikuno@gmail.com

<http://www.nssk.org/province/ikuno>

聖公会生野センター30周年記念事業のご参加のお礼

主のみ名を賛美します。

2022年に30周年を迎えた聖公会生野センターの記念事業にご協力、ご参加くださった皆様ありがとうございます。

おかげさまで以下の事業を行うことが出来ました。

- ① 連続セミナー
- ② 記念募金（会計報告はウルリムに掲載しております）
- ③ 30周年記念感謝礼拝（2022年10月10日、プール学院メアリーズホール）
- ④ のりばんレシピ発行
- ⑤ 障がい者の生活介護開始（2023年3月）及び共生型の高齢者デイサービスの開始（8月開始予定）とそれに伴い改築工事

特に記念礼拝は全国から多くの主教様を始めとした聖職、信徒の皆様が駆けつけてくださいました。大韓聖公会からも多くの参加者を得て記念すべき素晴らしい礼拝が与えられました。

31年目に入った聖公会生野センターですがこれからも「地域と共に歩み」「谷間に置かれた人々に寄り添い」ながら歩んでいきたいと考えています。

今後とも、聖公会生野センターと皆様が心をつつになり主が喜ばれる働きを続けていく所存ですのでご理解、ご支援、ご協力をお願いいたします。

2023年7月

聖公会生野センター30周年記念事業委員会

共同代表 主教 植松誠
 主教 武藤謙一
 主教 磯晴久
 主教 李京浩